

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																												
ECC国際外語専門学校	昭和59年2月20日	瀧山淳一	〒530-0015 大阪府大阪市北区中崎西2-1-6 (電話) 06-6311-1446																												
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																												
学校法人山口学園	昭和58年11月22日	理事長 酒元英二	〒530-0015 大阪府大阪市北区中崎西2-3-35 (電話) 06-6366-1440																												
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																											
文化・教養	語学ビジネス専門課程	ホテル・観光学科トラベルコース	平成17年文部科学省認定	-																											
学科の目的	<p>本学は学校教育法及び教育基本法に基づき、語学ビジネス専門教育を通じて、実社会に有用な人材の育成を目的とする。以て国際間の人々の交流と相互理解を促進し、世界の文化向上とその恒久平和樹立に寄与したい。そのために以下の4項目をホテル観光学科(トラベルコース)の学科目標として掲げている。</p> <p>① トラベル業界・企業出身の講師・専門家による理論と実学教育を通じて、最先端の情報と技術を提供することにより業界や企業が求める即戦力を伴った人材養成教育を行う。</p> <p>② 授業で得た知識・技能を観光地・企業(旅行会社等)などの現場で実践することにより、接客実戦(経験)力を高める教育を行う。</p> <p>③ 専門知識・技能を証明する資格(総合旅程管理者・国内旅程管理者・国内旅行業務取扱管理者・総合旅行業務取扱管理者・観光英語検定・旅行地理検定・サービス接客検定、アマデウス検定)取得教育を行う。</p> <p>④ 英語能力を磨き外国人のお客様とのコミュニケーション能力を高める実用英語教育を行う。</p>																														
認定年月日	平成26年3月31日																														
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																								
2年	昼間	1710	1800	0	0	0	0																								
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																										
23	5	0	3	5	8																										
学期制度	<p>■前期 4月 1日から 9月30日まで</p> <p>■後期 10月 1日から 3月31日まで</p>		成績評価	<p>■成績表: 有</p> <p>■成績評価の基準・方法</p> <p>各科目の単位認定は、以下の基準を全て満たすことで行う。授業出席率が75%以上であること。総合評価点が60点以上であること。</p>																											
長期休み	<p>■夏期休業 8月 1日から 8月31日まで</p> <p>■冬期休業 12月20日から 1月 8日まで</p> <p>■春期休業 3月 1日から 3月31日まで</p>		卒業・進級条件	<p>【卒業の要件】 卒業該当学年の各コースに設定された単位のうち、56単位を修得しているものに対して、学年末に卒業判定会議を開催し、学校長が卒業を認定する。</p> <p>【進級の要件】 進級該当学年の各コースに設定された単位のうち、58単位を修得しているものに対して、学年末に進級判定会議を開催し、学校長が進級を認定する。</p>																											
学修支援等	<p>■クラス担任制: 有</p> <p>■個別相談・指導等の対応</p> <p>・クラス担任による出欠確認</p> <p>・担任面談</p> <p>・保護者会</p> <p>・電話による対応</p>		課外活動	<p>■課外活動の種類</p> <p>・スポーツ大会 ・英語スピーチコンテスト</p> <p>・夏期英語集中プログラム</p> <p>・ハロウィーン ・文化祭(地球祭)</p> <p>・海外語学留学(英国・韓国等)</p> <p>・プレゼンテーションコンテスト ・春期就職活動プログラム</p> <p>■サークル活動: 有</p> <p>■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和2年度卒業者にに関する令和3年5月1日時点の情報)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>国内旅行業務取扱管理者試験</td> <td>①</td> <td>3</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>実用英語技能検定2級</td> <td>③</td> <td>8</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>国内旅程管理主任者試験</td> <td>③</td> <td>13</td> <td>13</td> </tr> <tr> <td>旅行地理検定 日本上級</td> <td>③</td> <td>11</td> <td>11</td> </tr> <tr> <td>旅行地理検定 世界上級</td> <td>③</td> <td>12</td> <td>12</td> </tr> </tbody> </table> <p>※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)</p> <p>■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等</p>				資格・検定名	種	受験者数	合格者数	国内旅行業務取扱管理者試験	①	3	3	実用英語技能検定2級	③	8	2	国内旅程管理主任者試験	③	13	13	旅行地理検定 日本上級	③	11	11	旅行地理検定 世界上級	③	12	12
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																												
国内旅行業務取扱管理者試験	①	3	3																												
実用英語技能検定2級	③	8	2																												
国内旅程管理主任者試験	③	13	13																												
旅行地理検定 日本上級	③	11	11																												
旅行地理検定 世界上級	③	12	12																												
就職等の状況※2	<p>■主な就職先・業界等(令和2年度卒業生)</p> <p>日本ツーリスト、ジ・アンド・ジ、三洋航空サービス、ワールドツアーシステム、MKTトラベル、丸和運輸(ツーリズム事業部)、フォーラムジャパン他</p> <p>■就職指導内容</p> <p>トラベル就職対策、各種ガイダンス、ツアープランニング発表会、筆記/面接対策、業界セミナー、学内企業説明会/選考会他</p> <p>■卒業生数: 15 人</p> <p>■就職希望者数: 15 人</p> <p>■就職者数: 15 人</p> <p>■就職率: 100 %</p> <p>■卒業生に占める就職者の割合: 100 %</p> <p>■その他: 0</p> <p>(令和 3 年度卒業者にに関する令和4年5月1日時点の情報)</p>		主な学修成果(資格・検定等)※3																												
中途退学の現状	<p>■中途退学者 2 名</p> <p>令和3年4月1日時点において、在学者22名(令和3年4月1日入学者を含む)令和4年3月31日時点において、在学者20名(令和4年3月31日卒業者を含む)</p> <p>■中途退学の主な理由</p> <p>一身上都合、意欲低下</p> <p>■中退防止・中退者支援のための取組</p> <p>担任による個人面談、出席管理、保護者会(来校、TEL)実施、欠席補講制度、学生アンケートの実施、学生相談室との連携</p>		中退率 9 %																												
経済的支援制度	<p>■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有</p> <p>※有の場合、制度内容を記入</p> <p>①英語試験特待による減免 ②ライセンス優遇特待による減免 ③指定大学・短大卒業による減免 ④大学・短大・専門学校卒業による減免 ⑤山口学園ご家族紹介優遇 ⑥ECC学習経験者優遇 ⑦関西外大・山口勇記念奨学生制度</p> <p>■専門実践教育訓練給付: 給付対象・非給付対象</p> <p>※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載</p> <p>■民間の評価機関等から第三者評価: 有</p>																														
第三者による学校評価	<p>評価団体: 一般社団法人専門職高等教育質保証機構</p> <p>受審年月: 令和4年2月</p> <p>評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL: <a href="https://qaphe.com/result/techgraduate/kokusaiecc/kokusaieccyear2021/">https://qaphe.com/result/techgraduate/kokusaiecc/kokusaieccyear2021/</a></p>																														
当該学科のホームページURL	<a href="https://kokusai.ecc.ac.jp/">https://kokusai.ecc.ac.jp/</a>																														

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

教育課程編成委員会を設置し関連する企業、団体等との連携体制を強化し、授業科目やカリキュラムの更なる充実をはかる。業界に精通した協会および企業等より委員を選任し、年2回の委員会では以下の事項について協議をし、改善を積極的に実践する。

1. 授業内容・学習成果・進路成果を分析し、改善策を協議する。年二回実施する、学生アンケート結果や授業内容・進路内容・学校生活等の情報をもとに、教育内容の改善を行う。
2. 企業・業界からの新たなニーズや要望を受け入れ、カリキュラムや実習・授業以外のプログラムに組み込めるかを協議し、年間カリキュラム、プログラムに反映させる。そのために、積極的に就職先企業よりモニターリングを行い、職業人として必要な要素や課題の情報収集につとめる。
3. 教職員のスキル(専門知識/技術)と指導力の向上を図るために研修体制を継続的に行うための情報共有の場とする。教職員アンケート(年2回)を実施しその情報を基に、企業研修(インターンシップ)の事前教育、研修期間中、事後教育における企業との連携・調整の改善をおこなう。
4. 教育課程編成委員会で協議された内容を、学内カリキュラム編成委員会で検討し、次年度以降の実際のカリキュラムや学校事業に組み込み、採用できない場合はその背景をまとめ次年度以降の教育課程編成委員会で報告し了解を得る。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

以下の①～⑤の流れに沿って編成委員会において、教育課程の改善を図る

- ① 教務課:教育に関する現状分析と課題をまとめ③の教育課程編成委員会に資料提出する。
- ② 進路指導課:進路指導に関する現状分析と課題をまとめ③の教育課程編成委員会に資料提出する。
- ③ 第1回教育課程編成委員会:教務・進路指導の課題を受け、企業・業界の立場から改善策の協議と提案する。
- ④ 学内カリキュラム編成委員会:教育課程編成委員会での協議内容に基づき審議し実施可能か決定する。
- ⑤ 第2回教育課程編成委員会:新年度の人材育成目標、カリキュラム改善点等を報告し承認を得る。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和4年7月31日現在

名前	所属	任期	種別
瀧山 淳一	ECC国際外語専門学校 学校長		
大谷内 圭	ECC国際外語専門学校 副校長		
杉田 典彦	ECC国際外語専門学校 進路指導課		
青木 一樹	ECC国際外語専門学校 専任教員		
榊原 悠祐	ECC国際外語専門学校 教務課		
中川 勇	株式会社エイチ・アイ・エス	2021年4月1日～2023年3月31日(2年)	③

※委員の種別の欄には、**企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。**

(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合には、種別の欄は空欄で構いません。)

- ① 業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ② 学会や学術機関等の有識者
- ③ 実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(8月、3月)

(開催日時(実績))

第1回 令和3年8月5日 11:00～13:00

第2回 令和4年3月2日 14:00～16:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況  
 教育課程編成委員会委員の方に本校トラベルコースの専門授業の見学またはご視聴して頂いたのち、カリキュラム・プログラム・検定試験結果・学生の就職状況についてお伝えしている。ICT活用機会の充実、現場で活かすことが出来る課外活動の必要性やカリキュラムにおいて何を重視するか等、委員会では忌憚のない貴重な意見をいただくことができた。その結果を授業やモチベーションプログラムに反映している。  
 業界就職後、長く勤めるための人間力育成について現場の意見をいただき、年間を通した指導に活用している。  
 加えて、学内イベント「トラベルツアープランニング発表会」の審査員として参加いただき、講評及び課題についてのご意見をいただき、今後のツアープランニングの授業内容に反映している。また旅行業界の現状を共有して頂くことにより、現場ニーズと本校の取組みとのギャップについて確認することができ、それがコースの方向性を調整する機会となっている。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

1.企業等との連携による実習・演習等の目的

- ・業界の実態を理解するために仕組み、内容、最新情報・技術を学生に授業を通じて提供する。
- ・業界での現場体験をすることにより、接客実戦(経験)力を高める。企業等と連携して実習・演習を行う。

2.企業等との連携による実習・演習等の運営

- ・企業等との連携による実習・演習等は本校教員と企業等から派遣された担当者が共同して実施する場合と、企業等から提供されたカリキュラム及び教材をもとに本校教員が授業を実施する場合がある。
- ・実施された実習・演習等については教務責任者、コース担任及び教育課程編成委員会で内容を検証し改善を図る。

3.企業等との連携による実習・演習等の評価

- ・本校教員と企業担当者が共同して実施する場合は、授業の成果に対して企業担当者の評価を基に本校教員が成績評価を行う。
- ・カリキュラム等を提供されて実施する場合は、企業等の成績評価規程に従って本校教員が成績評価を行う。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

国内ツアーコンダクターサービス授業・ツアープランニング実践授業ともに株式会社TEI様と講師業務委託契約を交わしている。同社より現役のツアーコンダクターを講師として授業を実施いただき、実践的でありかつ現場に即した授業内容を提供いただいている。また、科目の成績評価・単位認定も提携講師が行っている。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
国内ツアーコンダクターサービスIA	お客様が快適かつ安全に旅行を楽しめるようホスピタリティ精神を養い、トラブル処理やアクシデント対応力を身に付け、国内旅程管理主任者資格を目指す科目	株式会社TEI
ツアープランニング実践IB	国内ツアーの企画、見積もりなど、旅行企画の基礎知識を学び、各自が企画した国内ツアーを発表会の場で企業様に評価していただく科目	株式会社TEI

### 3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

#### (1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

「教務規約第35条」に定められている通り、以下の基本方針を定めている。

##### 1. 推薦学科の教員に対する研修・研究の目的

教員の質を一定以上に保つことと技術の向上のために、業界で使用されている標準技術、最新技術等を教員が直接企業等から学ぶ研修と、教授技術等の教育に関わる研修を毎年度それぞれ1回以上実施する。

##### 2. 推薦学科の教員に対する研修・研究の運営

研修については講師を本校に迎え入れて教員全員が同時に受講する全体研修と、一部の教員が参加する外部研修を適時組み合わせ実施する。一部の教員が参加する外部研修については、その研修内容について報告会を実施するなどして教員全体へその情報を伝える。

#### (2) 研修等の実績

##### ① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「「World in Focus」(PBL型授業)の紹介」(連携企業:With the World)

期間:令和3年8月30日(月) 対象:教職員

内容:インバウンド者の増加を想定して、英語力向上だけでなく、他国の情勢や文化、そして日本のことにより興味・関心を持ち、自分の意見を表現できる力を養い、そして世界に目を向けたコミュニケーション力の向上が必要ということを学んだ。

##### ② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「Hyper-QU 活用研修」(連携企業等:図書文化社)

期間:令和3年12月16日(木) 対象:教職員

内容:Hyper-QUを活用したクラス運営方法や個別支援を学ぶ

#### (3) 研修等の計画

##### ① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「2023年度 国家試験対策意見交換会」(連携企業等:株式会社JTB総合研究所主催)

期間:令和4年12月中旬予定 対象:旅行業務取扱管理者試験に精通している講師

内容:2023年度旅行業務取扱管理者試験(総合・国内)の特徴と傾向についての解説、2023年度JTB総合研究所出版テキストについての案内

##### ② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「教授力向上研修」(連携企業等:佛教大学)

期間:令和5年3月23日(月) 対象:教職員

内容:現学生の傾向をつかみ、それに対応する教授技術を学ぶ。

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

本校の「学校評価実施規定」に学校関係者評価について以下のように定めている。

(学校関係者評価)

第11条 校長は自己評価の結果を本校の関係者により組織した学校関係者評価委員会(以下「関係者委員会」という。)に報告し、意見を聴き、その意見を尊重し、教育活動及び学校運営に活用しなければならない。

(関係者委員会の構成)

第12条 関係者委員会は、次に掲げる区分から校長が委託する委員により構成する。

(1) 関連業界等関係者 2名以上 (2) 卒業生 1名 (3) 保護者または地域関係者 1名 (4) その他校長が必要と認める者1名  
2 委員の任期は、2年とする。ただし再任を妨げない。

(関係者委員会の運営)

第13条 関係者委員会に委員長を置く。

2 関係者委員会は、校長が招集し、委員長がその運営にあたる。

3 校長が必要と認める場合は、関係者委員会に委員以外の者の出席を求めることができる。

4 関係者委員会は、委員の過半数が出席しなければ開会することができない。

5 関係者委員会は、自己評価の進捗状況に応じ次年度の計画策定までの間に開催しなければならない。

(報酬及び費用弁償)

第14条 関係者委員会の報酬及び費用弁償については、本校が定める基準により支払う。

(学校関係者評価の評価結果)

第15条 委員長は、関係者委員会による評価結果をまとめ、報告書を作成しなければならない。

(学校関係者評価の活用)

第16条 教職員は、学校関係者評価の結果を活用し、教育活動及び学校運営等の質の保証と向上に継続的に努めなければならない。

(学校関係者評価結果の報告)

第17条 校長は、学校関係者評価結果を理事会に報告しなければならない。

(学校関係者評価結果の公表)

第18条 校長は学校関係者評価結果について公表しなければならない。

(その他)

第19条 本規定に定めるもののほか本校の学校評価に関し必要な事項は、校長が別に定める。

本校ではこの「学校評価実施規定」に則り、年間1～2回、学校関係者評価委員会を開催、学園ホームページ上に公開している。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の理念・目的・育成人材像は定められているか</li> <li>・学校における職業教育の特色は何か</li> <li>・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか</li> <li>・学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか</li> <li>・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか</li> </ul>
(2) 学校運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目的等に沿った運営方針が策定されているか</li> <li>・運営方針に沿った事業計画が策定されているか</li> <li>・運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか</li> <li>・人事、給与に関する規定等は整備されているか</li> <li>・教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか</li> <li>・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか</li> <li>・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか</li> <li>・情報システム化等による業務の効率化が図られているか</li> </ul>

<p>(3)教育活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか</li> <li>・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか</li> <li>・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか</li> <li>・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか。</li> <li>・関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか</li> <li>・関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか</li> <li>・授業評価の実施・評価体制はあるか</li> <li>・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか</li> <li>・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか</li> <li>・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか</li> <li>・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか</li> <li>・関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含む)を確保するなどマネジメントが行われているか</li> <li>・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか</li> <li>・職員の能力開発のための研修等が行われているか</li> </ul>
<p>(4)学修成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就職率の向上が図られているか</li> <li>・資格取得率の向上が図られているか</li> <li>・退学率の低減が図られているか</li> <li>・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか</li> <li>・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか。</li> </ul>
<p>(5)学生支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路・就職に関する支援体制は整備されているか</li> <li>・学生相談に関する体制は整備されているか</li> <li>・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか</li> <li>・学生の健康管理を担う組織体制はあるか</li> <li>・課外活動に対する支援体制は整備されているか</li> <li>・学生の生活環境への支援は行われているか</li> <li>・保護者と適切に連携しているか</li> <li>・卒業生への支援体制はあるか</li> <li>・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか</li> <li>・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか</li> </ul>
<p>(6)教育環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか</li> <li>・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか</li> <li>・防災に対する体制は整備されているか</li> </ul>
<p>(7)学生の受入れ募集</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生募集活動は、適正に行われているか</li> <li>・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか</li> <li>・学納金は妥当なものとなっているか</li> </ul>

(8) 財務	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか</li> <li>・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか</li> <li>・財務について会計監査が適正に行われているか</li> <li>・財務情報公開の体制整備はできているか</li> </ul>
(9) 法令等の遵守	<ul style="list-style-type: none"> <li>・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか</li> <li>・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか</li> <li>・自己評価の実施と問題点の改善を行っているか</li> <li>・自己評価結果を公開しているか</li> </ul>
(10) 社会貢献・地域貢献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか</li> <li>・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか</li> <li>・地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか</li> </ul>
(11) 国際交流	<ul style="list-style-type: none"> <li>・留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか</li> <li>・留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか</li> <li>・留学生の学修・生活指導について学内に適切な体制が整備されているか</li> <li>・学習成果が国内外で評価される取組を行っているか</li> </ul>

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価で浮かび上がった課題を基に、学生・指導に当たる教員・職員間の考え方をより緻密に合わせるために、教育目標、ディプロマポリシー、カリキュラムポリシーをより明確に設定した。また学生の自発的な学びを支援すべく、目標設定シートを学生自らが作成し、シートに基づいた面談を教員から定期的実施し、目標に向かって能動的に取り組むことができるよう支援していく。

## (4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和4年7月31日現在

名前	所属	任期	種別
西出 由佳	株式会社Kスカイ	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	企業等委員
塩谷 典子	株式会社TEI	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	企業等委員
中上 隆雄	済美地域社会福祉協議会	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	地域関係者
貴治 康夫		令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	高校教員
原 清治	佛教大学	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	大学教員
杉井 繭	卒業生	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。  
(例)企業等委員、PTA、卒業生等

## (5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ)

URL: <https://kokusai.ecc.ac.jp/>

公表時期: 令和4年7月31日

## 5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

## (1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校では、文部科学省生涯学習政策局が平成25年3月に発表した「専修学校における学校評価ガイドライン」附属資料5「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の趣旨および取組に当たっての視点、情報提供の内容・方法に則り、本校が設定する項目について本校及び学園のホームページ上で広く一般に公開するものとする。

連携および協力する企業等の学校関係者に対してもホームページ上で公開している情報を提供するとともに、学校関係者評価委員会や教育課程編成委員会等の委員会を通じて本校の教育活動その他の学校運営の状況について理解を深めていただくものとする。

## (2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校の教育・人材養成の目標及び教育指導計画、経営方針、特色、校長名、所在地、連絡先、学校の沿革、歴史、その他の諸活動に関する計画 例: 学校安全・保健対策等
(2) 各学科等の教育	入学者に関する受け入れ方針及び入学者数、収容定員、在学学生数、カリキュラム(科目配当表(科目編成・授業時数)、時間割、使用する教材など授業方法及び内容、年間の授業計画進級・卒業の要件等(成績評価基準、卒業・終了の認定基準等)、学習の成果として取得を目指す資格、合格を目指す検定、資格取得、検定試験合格等の実績卒業生数、卒業後の進路(進学者数・主な進学先、就職者数・主な就職先)
(3) 教職員	教職員数(職名別)教職員の組織、教員の専門性
(4) キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育への取り組み状況、実習・実技等の取り組み状況、就職支援等への取り組み支援企業・施設、業界団体等との連携によるカリキュラムの改善
(5) 様々な教育活動・教育環境	学校行事への取組状況、課外活動(部活動、サークル活動、ボランティア活動等)
(6) 学生の生活支援	学生支援への取組状況
(7) 学生納付金・修学支援	学生納付金の取扱い(金額、納入時期)活用できる経済的支援措置の内容等(奨学金、授業料減免等の案内等)



(8)学校の財務	事業報告書、貸借対照表、収支計算書、監査報告書
(9)学校評価	自己評価・学校関係者評価の結果、評価結果を踏まえた改善方策
(10)国際連携の状況	留学生の受入れ・派遣状況、外国の学校等との交流状況
(11)その他	学則、学校運営の状況に関するその他の情報

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ)

URL:[https://kokusai.ecc.ac.jp/about/self\\_evaluation/](https://kokusai.ecc.ac.jp/about/self_evaluation/)

授業科目等の概要

(語学ビジネス専門課程ホテル・観光学科)															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
								講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
必修	選択必修	自由選択													
	○		Business (2022) II A	This class is designed as a preparatory course for students' job search and working life.	2/前	60	4	○			○		○		
	○		Contemporary Issues 3 / M (2022) II A	当該科目Contemporary Issuesは、週4回で1テーマ完結型の授業を展開していきます。基本的に授業は全て英語で行われます。National Geographicの最新のコンテンツ（写真・動画）を通して、世界の人々や場所に触れ、学習した内容と自分の生活とを関連づけることで様々な事物に興味と関心を持ち、Critical Thinking Skillを段階的に養いながら、見聞を広め、自分自身の意見を持ち、それを他者と共有することを学びます。	2/前	30	2	○			○			○	
	○		Contemporary Issues 3 / T (2022) II A	当該科目Contemporary Issuesは、週4回で1テーマ完結型の授業を展開していきます。基本的に授業は全て英語で行われます。National Geographicの最新のコンテンツ（写真・動画）を通して、世界の人々や場所に触れ、学習した内容と自分の生活とを関連づけることで様々な事物に興味と関心を持ち、Critical Thinking Skillを段階的に養いながら、見聞を広め、自分自身の意見を持ち、それを他者と共有することを学びます。	2/前	30	2	○			○			○	
	○		Contemporary Issues 3 / Th (2022) II A	当該科目Contemporary Issuesは、週4回で1テーマ完結型の授業を展開していきます。基本的に授業は全て英語で行われます。National Geographicの最新のコンテンツ（写真・動画）を通して、世界の人々や場所に触れ、学習した内容と自分の生活とを関連づけることで様々な事物に興味と関心を持ち、Critical Thinking Skillを段階的に養いながら、見聞を広め、自分自身の意見を持ち、それを他者と共有することを学びます。	2/前	30	2	○			○			○	
	○		Contemporary Issues 3 / W (2022) II A	当該科目Contemporary Issuesは、週4回で1テーマ完結型の授業を展開していきます。基本的に授業は全て英語で行われます。National Geographicの最新のコンテンツ（写真・動画）を通して、世界の人々や場所に触れ、学習した内容と自分の生活とを関連づけることで様々な事物に興味と関心を持ち、Critical Thinking Skillを段階的に養いながら、見聞を広め、自分自身の意見を持ち、それを他者と共有することを学びます。	2/前	30	2	○			○			○	
	○		Contemporary Issues 4 / M (2022) II A	当該科目Contemporary Issuesは、週4回で1テーマ完結型の授業を展開していきます。基本的に授業は全て英語で行われます。National Geographicの最新のコンテンツ（写真・動画）を通して、世界の人々や場所に触れ、学習した内容と自分の生活とを関連づけることで様々な事物に興味と関心を持ち、Critical Thinking Skillを段階的に養いながら、見聞を広め、自分自身の意見を持ち、それを他者と共有することを学びます。	2/前	30	2	○			○			○	
	○		Contemporary Issues 4 / T (2022) II A	当該科目Contemporary Issuesは、週4回で1テーマ完結型の授業を展開していきます。基本的に授業は全て英語で行われます。National Geographicの最新のコンテンツ（写真・動画）を通して、世界の人々や場所に触れ、学習した内容と自分の生活とを関連づけることで様々な事物に興味と関心を持ち、Critical Thinking Skillを段階的に養いながら、見聞を広め、自分自身の意見を持ち、それを他者と共有することを学びます。	2/前	30	2	○			○			○	
	○		Contemporary Issues 4 / Th (2022) II A	当該科目Contemporary Issuesは、週4回で1テーマ完結型の授業を展開していきます。基本的に授業は全て英語で行われます。National Geographicの最新のコンテンツ（写真・動画）を通して、世界の人々や場所に触れ、学習した内容と自分の生活とを関連づけることで様々な事物に興味と関心を持ち、Critical Thinking Skillを段階的に養いながら、見聞を広め、自分自身の意見を持ち、それを他者と共有することを学びます。	2/前	30	2	○			○			○	
	○		Contemporary Issues 4 / W (2022) II A	当該科目Contemporary Issuesは、週4回で1テーマ完結型の授業を展開していきます。基本的に授業は全て英語で行われます。National Geographicの最新のコンテンツ（写真・動画）を通して、世界の人々や場所に触れ、学習した内容と自分の生活とを関連づけることで様々な事物に興味と関心を持ち、Critical Thinking Skillを段階的に養いながら、見聞を広め、自分自身の意見を持ち、それを他者と共有することを学びます。	2/前	30	2	○			○			○	
	○		Contemporary Issues 5 / M (2022) II A	当該科目Contemporary Issuesは、週4回で1テーマ完結型の授業を展開していきます。基本的に授業は全て英語で行われます。National Geographicの最新のコンテンツ（写真・動画）を通して、世界の人々や場所に触れ、学習した内容と自分の生活とを関連づけることで様々な事物に興味と関心を持ち、Critical Thinking Skillを段階的に養いながら、見聞を広め、自分自身の意見を持ち、それを他者と共有することを学びます。	2/前	30	2	○			○			○	



27	○	Another sky(メディアプロモーション)ⅡA	新しい旅行の形(現地発着 体験型 ニューツーリズムによる地域との関わりなど)に変化し、そして、新しい旅行販売の形としてメディアが多用されてきている。その新しい旅行の形に対応していくために、メディアの中で旅行をデザインしていく力を身につけたい。実際の口頭によるカウンターセールスだけでなく、映像などによってセールス、集客ができるようにスキルアップをしていきたい。	2/前	30	2	○			○	○							
28	○	Earth Trip (世界観光研究)ⅡA	世界とズームなどで結び、生中継、インタビュー形式で、海外の今日的な問題点や現状を知る。また、これまでに学んできた地理的知識を現地の方と臨場感ある場所で確認しながら雰囲気を楽しむ。	2/前	30	2	○			○	○							
29	○	エリアスペシャリストⅡA	エリアスペシャリストの1エリアを選択し、修了認定を取得する。選択したエリアに関しては、専門知識を養う。	2/前	30	2	○			○	○							
30	○	グローバルコミュニケーションⅡA	多様なバックグラウンドを持つ学生同士で、ディスカッションを通し、コミュニケーションスキルを習得・向上し合うことによって、多文化への理解を深め、様々な相互国際異文化理解を共有することができるようになる。【この科目はアクティブラーニング重点科目です】	2/前	30	2	○			○	○							
31	○	ツーリズムスペシャリストαⅡA	旅行をセールスしていく立場から、既習の地理で学んだ知識を立体的にとらえていきたい。各々の街や観光地、ホテルを「グーグルアース」などを用いて実際の臨場感ある画像を見て知識を深め、セールスに役立つ最終的な知識の構築。(海外編)	2/前	30	2	○			○	○							
32	○	トラベルセールス実践ⅡA	旅行商品という目に見えない商品売ることに必要なスキルを学ぶ。単に地理力を蓄えるだけでなく、セールスにおける場面に合わせた売り方や、注意事項などを学ぶ	2/前	30	2	○			○	○							
33	○	観光英語ⅡA	添乗員として海外にお客様をご案内するとき、場面場面で必要な英語を学ぶ。空港 レストラン ホテルチェックイン 観光地などの案内などにおいて、ルーティンとして使う言葉を学ぶ。	2/前	30	2	○			○	○	○						
34	○	観光地理(国内・海外)Ⅱ	地理検定を終え、さらなる、地理力を身につける。セールスで役に立つ実践的な地理力を身につける。	2/前	30	2	○			○	○							
35	○	Both Sides of the Issues(2022)ⅡB	This class is intended to develop students' critical thinking skills and ability to express their opinions in a more complex and nuanced way.	2/後	60	4	○			○	○							
36	○	Business(2022)ⅡB	This class is designed as a preparatory course for students' job search and working life.	2/後	60	4	○			○	○							
37	○	Contemporary Issues 1 / M(2022)ⅡB	当該科目Contemporary Issuesは、週4回で1テーマ完結型の授業を展開していきます。基本的に授業は全て英語で行われます。National Geographicの最新のコンテンツ(写真・動画)を通して、世界の人々や場所に触れ、学習した内容と自分の生活とを関連づけることで様々な事柄に興味と関心を持ち、Critical Thinking Skillを段階的に養いながら、見聞を広め、自分自身の意見を持ち、それを他者と共有することを学びます。	2/後	30	2	○			○	○							
38	○	Contemporary Issues 1 / T(2022)ⅡB	当該科目Contemporary Issuesは、週4回で1テーマ完結型の授業を展開していきます。基本的に授業は全て英語で行われます。National Geographicの最新のコンテンツ(写真・動画)を通して、世界の人々や場所に触れ、学習した内容と自分の生活とを関連づけることで様々な事柄に興味と関心を持ち、Critical Thinking Skillを段階的に養いながら、見聞を広め、自分自身の意見を持ち、それを他者と共有することを学びます。	2/後	30	2	○			○	○							
39	○	Contemporary Issues 1 / Th(2022)ⅡB	当該科目Contemporary Issuesは、週4回で1テーマ完結型の授業を展開していきます。基本的に授業は全て英語で行われます。National Geographicの最新のコンテンツ(写真・動画)を通して、世界の人々や場所に触れ、学習した内容と自分の生活とを関連づけることで様々な事柄に興味と関心を持ち、Critical Thinking Skillを段階的に養いながら、見聞を広め、自分自身の意見を持ち、それを他者と共有することを学びます。	2/後	30	2	○			○	○							
40	○	Contemporary Issues 1 / W(2022)ⅡB	当該科目Contemporary Issuesは、週4回で1テーマ完結型の授業を展開していきます。基本的に授業は全て英語で行われます。National Geographicの最新のコンテンツ(写真・動画)を通して、世界の人々や場所に触れ、学習した内容と自分の生活とを関連づけることで様々な事柄に興味と関心を持ち、Critical Thinking Skillを段階的に養いながら、見聞を広め、自分自身の意見を持ち、それを他者と共有することを学びます。	2/後	30	2	○			○	○							
41	○	Contemporary Issues 4 / M(2022)ⅡB	当該科目Contemporary Issuesは、週4回で1テーマ完結型の授業を展開していきます。基本的に授業は全て英語で行われます。National Geographicの最新のコンテンツ(写真・動画)を通して、世界の人々や場所に触れ、学習した内容と自分の生活とを関連づけることで様々な事柄に興味と関心を持ち、Critical Thinking Skillを段階的に養いながら、見聞を広め、自分自身の意見を持ち、それを他者と共有することを学びます。	2/後	30	2	○			○	○							
42	○	Contemporary Issues 4 / T(2022)ⅡB	当該科目Contemporary Issuesは、週4回で1テーマ完結型の授業を展開していきます。基本的に授業は全て英語で行われます。National Geographicの最新のコンテンツ(写真・動画)を通して、世界の人々や場所に触れ、学習した内容と自分の生活とを関連づけることで様々な事柄に興味と関心を持ち、Critical Thinking Skillを段階的に養いながら、見聞を広め、自分自身の意見を持ち、それを他者と共有することを学びます。	2/後	30	2	○			○	○							



